



M.Takahashi

THE TAKAMATSUNOMIYA KINEN

第54回 高松宮記念 (GI)

1着 賞170,000,000円 2着 68,000,000円 3着 43,000,000円 4着 26,000,000円 5着 17,000,000円
 付加賞 3,780,000円 1,080,000円 540,000円



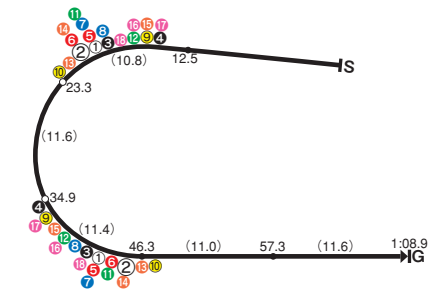
レース映像は
 コチラでご覧
 いただけます。

4歳以上、除未出走馬および未勝利馬
 負担重量 58%、牝馬2%減

2024.3.24 中京 小雨・重 芝1200m (国際) 指定

順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム (管差)	コーナー 通過順位	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	②	マッドクール	牡 5	58	坂井瑠星	1:08.9	3-3	33.7	540(+18)	9.6⑥	池添 学(栗東)	116
2	③	ナムラクレア	牝 5	56	浜中 俊	アタマ	10-10	33.2	470(-8)	5.4②	長谷川浩大(栗東)	111
3	⑩	ビクターザウィナー	騾 6	58	K.リヨン	3	1-1	34.5	494(-1)	9.6⑤	C.シャム(香港)	108
4	⑬	ウインカーネリアン	牡 7	58	三浦皇成	1 1/2	2-2	34.6	518(±0)	32.6⑩	鹿戸雄一(美浦)	104
5	⑫	ロータスランド	牝 7	56	岩田康誠	ハナ	13-13	33.7	496(+4)	35.0⑫	辻野泰之(栗東)	100
6	⑤	トウシンマカオ	牡 5	58	C.ルメール	1/2	6-7	34.2	478(-2)	8.4④	高柳瑞樹(美浦)	103
7	①	ビッグシーザー	牡 4	58	吉田隼人	1/2	6-7	34.4	514(-2)	21.4⑧	西園正都(栗東)	102
8	⑭	ママコチャ	牝 5	56	川田将雅	3/4	3-3	34.8	488(+2)	8.0③	池江泰寿(栗東)	96
9	①	メイケイエール	牝 6	56	池添謙一	1/2	6-5	34.7	486(-8)	21.9⑨	武 英智(栗東)	95
10	⑥	ルガル	牡 4	58	西村亨也	3/4	3-5	34.8	524(+2)	3.7①	杉山晴紀(栗東)	97
11	⑮	ディヴィーナ	牝 6	56	M.デムロ	3/4	15-15	34.1	434(+16)	60.9⑬	友道康夫(美浦)	91
12	⑮	ウインマーベル	牡 5	58	松山弘平	1 1/2	13-13	34.6	482(+6)	16.9⑪	深山雅史(美浦)	91
13	⑮	シユバルツカイザー	騾 6	58	大野拓弥	3/4	12-10	35.0	502(±0)	196.1⑭	大竹正博(美浦)	89
14	⑧	ソダズリング	牝 4	56	武 豊	クビ	10-12	34.8	472(±0)	12.3⑦	音無秀孝(栗東)	85
15	④	モズメイメイ	牝 4	56	藤岡佑介	1 1/4	17-18	34.4	456(-10)	147.2⑰	音無秀孝(栗東)	82
16	⑦	マテンロウオリオン	牡 5	58	横山典弘	3/4	17-16	34.7	490(+6)	172.5⑱	昆 貞(栗東)	84
17	⑨	ジャンパンカラー	牡 4	58	吉田 豊	2 1/2	15-16	35.1	510(+2)	66.8⑯	田中 剛(美浦)	78
18	⑦	テイエンスパーダ	牝 5	56	富田 晁	1 1/2	6-7	36.1	504(+2)	104.9⑲	木原一良(栗東)	70

単勝②960円(6%) 複勝②300円(5%) ③180円(2%) ⑩340円(6%) 枠連①-②1,620円(8%)
 馬連②-③2,110円(8%) ワイド②-③760円(5%) ②-⑩1,900円(24%) ③-⑩1,190円(13%)
 馬単②-③4,920円(17%) 3連複②-③-⑩10,020円(36%) 3連単②-③-⑩58,740円(208%)
 5重勝④④④①②5,411,710円(84票) 対象競走：中山10R/中京10R/阪神11R/中山11R/中京11R



通過タイム：600m 800m 1000m 上り：800m 600m
 34.9 - 46.3 - 57.3 45.6 - 34.0

アラカルト

- ・坂井瑠星騎手は高松宮記念初勝利。JRA重賞は本年3勝目、通算17勝目
- ・池添学調教師は高松宮記念初勝利。JRA重賞は本年2勝目、通算12勝目
- ・Dark Angel産駒はJRA重賞初勝利
- ・5歳馬の勝利は20年モズスーパーフレアに続く通算14回目 (GIとなった96年以降、以下同)
- ・マッドクールの馬体重540kgは、15年エアロヴェロシティの524kgを更新する本競走の最高馬体重優勝記録
- ・非抽選馬 5頭(アサカキング、キミワクイン、グランデマーレ、クリノガウディー、モリノドリーム)

外 マッドクールIRE *Mad Cool*

牡 芦毛 2019.3.29生
 アイルランド Moyglare Stud Farm Ltd生産
 馬主・衛サンデーレーシング 栗東・池添学厩舎
 馬名意味・マドリードで毎年夏に開催される音楽フェスティバル

Dark Angel 芦毛 2005	Acclamation 鹿毛 1999	Royal Applause Princess Athena
	Midnight Angel 芦毛 1994	Machiavellian Night At Sea
Mad About You 鹿毛 2005	Indian Ridge 栗毛 1985	Ahonoora Hillbrow
	Irresistible Jewel 鹿毛 1999	Danehill In Anticipation

5代までのインブリード：Ahonoora M3×S4 Northern Dancer S5×M5×M5

INTERVIEW

山内大輔 厩舎長（ノザンファーム早来・育成）

初重賞勝ちがGI制覇となったのは嬉しかったです

他の馬たちよりも乗り出した時期が遅くなっただけでなく、目処がついた2歳春に右前脚の骨折が見つかり、デビュー時期が遅くなりました。ただ、入厩してからの評価が高く、管理している池添学調教師も「調教での動きは重賞級です」と話していました。昨年のスプリンターズSでは惜しいレースをしていただけに、初重賞勝ちがGI制覇となったのは嬉しかったです。



A. Takeda

数々のスプリントG1勝ち馬を輩出している欧州の快足種牡馬タークエンジェルを父に持つ本馬は短距離戦で頭角を現し、3歳時に未勝利戦から4連勝を飾ってオープン入り。飛躍が期待された昨年はタイトルの手前で惜敗の足踏みを重ねたものの、GIに手が届く力は随所で示していた。暮れの香港スプリント(8着)の後、3カ月の休養を挟んで臨んだこの日は、一段とホリユームアップした芦毛の巨体を躍らせて快走。ハナ差で戴冠を逃した昨秋スプリンターズS2着の雪辱を果たし、短距離王の称号を襲名した。

父タークエンジェル Dark Angel

アイルランド産 英9戦4勝(ミドルパークS^{G1}、ミルリーフS^{G2})、08年から愛で供用
 [(代表産駒)バターシュ Battaash(アペイドロンシャン賞・仏^{G1}、ナンソープS・英^{G1}2回)、レイジングブル Raging Bull(ハリウッドダービー・米^{G1}、シユメイカーマイルS・米^{G1})、リーサルフォース Lethal Force(ダイヤモンドジュビリーS・英^{G1}、ジュライC・英^{G1})、ハリーエンジェル Harry Angel(ジュライC・英^{G1}、スプリントC・英^{G1})、エンジェルブルー Angel Bleu(ジャンリュックラガルデル賞・仏^{G1}、クリテリウムアンテルナショナル・仏^{G1})、メッカズエンジェル Mecca's Angel(ナンソープS・英^{G1}2回)、アルティカ Althiqa(ジャストアゲームS・米^{G1}、ダイアナS・米^{G1})、アートパワー Art Power(英チャンピオンズスプリントS^{G1})、カーデム Khaadem(クイーンエリザベスII世ジュビリーS・英^{G1})、他に重賞勝ち馬多数

母マッドアバウトユー Mad About You

アイルランド産 愛、北米、仏15戦3勝(グラッドネスS・愛^{G3}、ガーネットS・愛L、愛1000ギニー^{G1}2着、プリティポリリーS・愛^{G1}2着、アサシS・愛^{G3}2着、マルセルブーサク賞・仏^{G1}3着、モイグレアスタッドS・愛^{G1}3着)
 マリンカ Malinka(12 牝父Pivotal)愛7戦2勝
 ハートフルIRE(13 牝父Shamardal)愛11戦1勝
 ダンシングウィズストームズ Dancingwith Storms(14 驕父New Approach)
 | 愛、英障害13戦1勝
 ソウルシーカー Soul Seeker(17 驕父Oasis Dream)愛、英50戦8勝
 アマシェール A Ma Chere(18 牝父Kodiac)愛8戦1勝(シルバーフラッシュ^{G3}3着)

マッドクールIRE 本馬(19 牝父Dark Angel)中央11戦6勝(高松宮記念^{G1}、春雷S・L、知立S、知多特別、大牟田特別、スプリンターズS^{G1}2着、シルクロードS^{G3}3着)、香1戦0勝 獲得総賞金333,466,000円
 パルティザンヒーロー Partisan Hero(20 驕父Muhaarar)愛8戦1勝
 カンパリスソーダ Campari Soda(21 牝父Showcasing)
 ※11(流産)、15(死産)、16(前年種付せず)

祖母イリジスティブルジュエル Irresistible Jewel

アイルランド産 中央0勝、愛、英、仏3勝(リブルズデールS・英^{G2}、ブランドフォードS・愛^{G3}、オペラ賞・仏^{G1}2着)、ロイヤルダイヤモンド Royal Diamond(愛セントレジャー^{G1})、プリンセスハイウェイ Princess Highway(リブルズデールS・英^{G2}、ブルーウィンドS・愛^{G3})の母

接戦を制して短距離王の称号を襲名

上前期の快足王決定戦・高松宮記念には、ママコチャを筆頭に昨秋のスプリンターズSの1〜3着馬が揃って参戦。他にも前哨戦を強い勝ちっぷりで制したルガル、トウシンマカオ、香港からやってきたビクターザウイナーなど、多彩な顔触れが一堂に会した。ハイレベルの混戦ムードに包まれたレースはスプリンターズS2、3着馬の一騎打ちとなり、アタマ差の接戦に競り勝ったマッドクールが短距離界の新たな王位に君臨した。

降りしきる小雨のもと、5年連続で道悪重を舞台に争われたレースはビクターザウイナーが先導。互角の勢いで飛び出したマッドクールと呼吸を合際どく凌ぎ切った。

数々のスプリントG1勝ち馬を輩出している欧州の快足種牡馬タークエンジェルを父に持つ本馬は短距離戦で頭角を現し、3歳時に未勝利戦から4連勝を飾ってオープン入り。飛躍が期待された昨年はタイトルの手前で惜敗の足踏みを重ねたものの、GIに手が届く力は随所で示していた。暮れの香港スプリント(8着)の後、3カ月の休養を挟んで臨んだこの日は、一段とホリユームアップした芦毛の巨体を躍らせて快走。ハナ差で戴冠を逃した昨秋スプリンターズS2着の雪辱を果たし、短距離王の称号を襲名した。